

2/12 エズラ記 7 章 1-10 節「主の律法を調べ、これを実行し」

小池 宏明 牧師

エルサレムに神の宮、神殿を再建してから半世紀以上経つと、世代が代わり、人々の信仰は形式的なものになっていた。主なる神様は、モーセの律法に通じた祭司エズラをお立てになり、彼にペルシア帝国の王アルタクセルクセスの許可と支援を受けさせ、エルサレムに帰還させた。第二次帰還である。

*エズラの決意

エズラたちがエルサレムに帰る目的は、形骸化しているユダヤ人たちの信仰生活を立て直すためだった。10 節「エズラは、【主】の律法を調べ、これを実行し、イスラエルで掟と定めを教えようと心を定めていた。」ここに、エズラの決意が込められている。信仰生活の立て直しのためには、主の律法、御ことばを教えることが大切である。主の御ことばを知らないで、生活の立て直しはできない。

*エズラと民の悔い改め (9-10 章)

エズラは、民の指導者たちから「罪の告白」を受ける。それは偶像礼拝の罪であり、その深刻な内容に、エズラは茫然と座り込んでしまった。ここで、エズラは、先祖たちの罪と先に帰還した民の罪を「私たちの罪」だと、主の御前に告白して祈っている。エズラの祈りを聞いて、多くの民が集まってきて、涙とともに悔い改めが始まった。そして民は自ら異国の女性と離縁することを決めた。異国の妻との結婚によって、蔓延ってしまった偶像礼拝や悪しき風習を取り除くためだ。

*聖別された生き方

エズラと民の悔い改めは、次のように適応できる。

① 私たち一人ひとりが罪咎と決別していきたい。罪の本質は、私を生みだし、私を救い出して下さった主なる神様に背を向け、無視することだ。私たちの周りには、人間中心の価値観が深く根を張っていて、人間の感情や理性を基準にして、聖書の御ことばでさえも、人間の都合に合わせて理解してしまう誘惑がある。そして、キリストの教会がキリスト中心ではなく、人間中心の集まりになっていくと、それに気付かず悔い改めないならば、やがて滅びに向かってしまうのだ。偶像礼拝という背信の罪を犯して国を失ったユダヤ人たちと同じことが起きてしまう。

② 罪咎の判断基準は聖書である。エズラが決断したように、聖書をよく調べて、その教えを実行して生き、そして大切な人たちにも分かち合っていきたい。それが、あなたを守り、あなたの人生を幸いに導く。キリストを頭とする教会を守るのだ。